

5

事故（溺水・熱傷・異物誤飲・子ども用品を正しく使おう）

全国各地で毎年起こる子どもの事故の多くは同じパターンの繰り返しです。子どもの事故で最も大切なことは、年齢ごとに起こりやすい事故を知り事前に予防することです。

① おぼれる：溺水

毎年多くの子どもが溺れて亡くなっています。中でも乳幼児が最も溺れる場所は自宅の浴槽です。ほんのわずかな時間目を離れた瞬間に起こることもあります。予防策として子どもが一人で浴室に入れないように鍵をかける、残り湯をしない、子どもだけでお風呂にいれないなどが挙げられます。

② やけど：熱傷

子どもが手の届く範囲の熱いものをひっくり返したり（お茶やカップ麺、電気ケトルやポットなど）触ったり（炊飯器、加湿器、アイロンなど）するため皮膚が赤くなったり、水ぶくれになります。子どもの成長に合わせて手の届かない所に置く工夫をしてください。起きてしまった場合まずはやけどした部位をすぐに冷やすことが大切です。流水で最低5-10分程度は冷やしてから病院を受診しましょう。

